

令和5年度 学校評価報告書に係る学校運営協議会委員の意見及び評価

評価 4:十分に達成 3:おおむね達成 2:努力を要する 1:取組内容の修正・変更を要する。

項目	重点指導項目	方策・手立て	学校運営協議会委員の意見	委員の評価
豊かな心の育成	いじめ等の未然防止と初動による適切な対応	いじめ等の未然防止の取組を充実させるとともに事案発生時の報告・連絡・相談体制の整備と確実に丁寧な初動対応を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめの問題は、なくすことは不可能だと思っています。理由は、どんなにその年度に素晴らしい対策を行ってなくなっても、児童は次々に新しく入れ替わり、対人関係も毎年、毎学期変わっていくからです。・・・(省略)そのためにも、先生方の毎年の絶え間ざる努力・指導が必要だと思います。これからも大変でしょうが、先生方の御尽力を期待する次第です。 ○ 男子も女子も序列が決まるまでは争いがあるでしょう。①争うグループ②傍観するグループに分かれて推移し順位が決まるでしょう。安定した平和な日が訪れるのを待つべきです。その間に暴力行為等がないよう、教師は注意するべきでしょう。 ○ 相手を思いやる心・・・人間が生きていくのに大切なことです。他人事を自分事として考える力をもてるよう教育を願います。 ○ いじめ等の対応が確実に実施されているため、アンケート(97%)に満足度が表れている。 ○ いじめ等の件については、当地区では全く見聞きしていないので良好であると認める。 ○ 令和3年と5年のアンケートを比較した場合、右一静歩ができていない児童が多いようである。きまりは守られているようなので、元気のいい子が多いのであろう。大きな怪我をしないよう、指導は必要である。 ○ 学校訪問時には子どもたちが進んで挨拶をしてくれます。また、廊下歩行も規則に則っているようです。 ○ 校外で会ったとき、児童の方からあいさつしてくれます。 ○ 登下校で見受ける範囲では、あいさつはきちんとするし、特に乱暴な言葉遣いは見受けられない。 ○ ボランティア活動等は、特に活動はしていない状況である。 ○ いろいろなボランティア活動に取り組んでいることを知りました。 ○ ボランティアや福祉の心は、体験してみても初めて根付くものだと思います。いろいろなそのような体験ができる機会を作って欲しいと思います。 	3.3
	基本的な生活習慣定着・規範意識の醸成	あいさつや言葉遣い、廊下歩行など基本的な生活習慣の定着を図る。		
	相手を思いやる心の育成	相手の立場に立つ指導の強化と様々な交流の充実を図る。		
	福祉教育や体験活動による心の教育推進	ボランティア活動や福祉教育、体験活動を充実させ、児童の心を耕す。		
確かな学力の定着	諸調査の経年変化の分析と活用	CRT検査の経年変化から見た各学年の指導上の課題の抽出と重点的な指導を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生からの意見は役立つと思います。一貫教育はもっともっと深めるようお願いします。 ○ 令和3年と5年のアンケートを比較した場合、学力の定着はできていないようである。ただ、小中一貫教育の推進とあるが、授業の学習に遅れた児童の指導は、今の教育方法ではできていないと思う。児童一人一人にパソコンが配られ、ICTを使った教育環境も整っている。家庭学習は、完全にICT教育に任せ、授業の学習に遅れた児童は、遅れた学習からICTに教育を任せ、先生は通信教育のようなサポートで児童に教える。遅れてでも学習は身に付けば、授業中分らないから1時間ば一つと過ごす児童が減るかもしれない。 ○ 家庭での読書の習慣は、50%と前年度と変わらない。漫画本でも、読めば読書である。図書室に、漫画「ワンピース」を置くことをお勧めする。あれだけの物語、国宝である。最新話まで読み終わるのに、何日、何ヶ月かかるであろう。漫画で読む楽しさを覚えれば、家でも読書するようになると思う。 ○ 読書の習慣定着(アンケート結果)を評価します。 ○ 読書は、スマホやタブレットなど大変便利なものが出てきて、どうしても自発的な読書が子どもの中で軽んじられてきている気がするのですが、思考力・観察力・憶測の心を育てるには必要なものだと思います。家庭でも少しでも自分から読書する習慣が付いてくれればと思っています。 ○ 文字離れが進む中、(読書冊数が)100冊を超える児童が60%いるということは、成果の表れだと思います。 ○ 小中一貫教育の充実を期待します。 ○ 自分の家庭等では、特に目立った活動は認められないが、クラブやその他遊び仲間でのことは不明である。 ○ 学習塾等に通う子ども等も見受けられ、良好の状況ではないかと見受けられる。 	3.0
	保護者と連携した家庭読書の推奨やICTを活用した家庭学習の充実	家庭と連携し、読書やICTを用いた学習を推進する。		
	小中一貫教育の推進	中学校から見た小学校で定着の必要な内容を意識した指導を行う。		
	児童が主役となった授業による学力向上	対話的で深い学びにつながる授業の計画と実施を行う。		
たくましい体づくり	体力向上プランを活用した取組の推進	体力向上プランに基づき、体力向上のための取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年と5年のアンケートを比較した場合、学年に応じた体力作りが身に付いていないようだ。しかし、体の成長は個人差がある。あまり小学校時代で、体が成長するとその後は伸び悩む。小学校時代のスポーツは、楽しく運動できればいい程度で終わらせた方がいい。厳しくすると、スポーツが嫌いな子どもが育つだけ。 ○ 多種多様、バラエティーに富んだ体づくり、特に、「土いじり」は心身ともにの人格形成に役立つでしょう。 ○ 体力向上指導、衛生習慣の指導を評価します。 ○ 室内で過ごす時間が多いと聞きます。基礎体力を付けるためにも必要な取組だと思います。 ○ (予告なしの避難訓練や有事に備えた引き渡し訓練は)素晴らしい計画だと思います。 ○ 健診結果を活用した健康な体づくりで、1学期の歯科検診で、12月にもかかわらずむし歯の治療率が39.4%と低い。都城市に住んでいれば子どものむし歯の治療はほぼ無料である。育児放棄を疑う。 ○ 「好き嫌がなく食べる等」が身に付いている。というアンケートがある。誰にでも好き嫌いはある。これは評価に入れていいのだろうか。 ○ 食育指導の充実を期待します。 ○ 身近な教育が「食」だと思います。親子の会話や作ってくれる保護者の大変さなどを知る機会にもなる。 ○ 体面については、ソフトボール、野球、バレーボール等での活動が行われており、特別劣ること等も見受けられないが、全般的にやせ形の子が多く見受けられる。 ○ 食育面については、特別見聞きはしないが、当地区は乳牛やヤギ等を肥育している家庭が多く、劣ることはないと思われる。 	3.0
	命を大切に作る取組の充実	予告なしの避難訓練と有事に備えた引き渡し訓練を計画・実施する。		
	健診結果を活用した健康な体づくり	自分の健康に対する関心を高めるために、健康診断後の治療率の向上に努める。		
	家庭や地域と連携した食育の推進	食に対する望ましい理解を深めるために「弁当の日」の実践の充実に努める。		
開かれた学校づくり	地域や保護者と連携・協働した活動の充実	地域や保護者と連携・協働することで学校教育の質的向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な地域行事に子どもたちや先生方が参加してくださっていることに感謝しています。子どもたちが地域の行事に参加することで、郷土愛が生まれ、地域の発展に寄与しようとする子どもも生まれてくると思います。これからもよろしくお願います。 ○ 地域と学校の連携は、伝統芸能(奴踊り)や米作り、オープンスクールでの授業等でできていると思う。 ○ 地域や保護者と、山之口町の全小学校の教育レベルを上げることを考えて協議したことはない。 ○ 文部科学省が示す学級数基準の区分では、人数の多い山之口小学校さえ「下回る」である。児童数が少ない学校の方が、先生の指導が充実しており環境はいい。しかし、教師不足の現代では、学校を合併し教員を確保し、先生の負担をやわらげ、指導を充実させた方がいいと思われる。学校における働き方改革も、合併した方が事務の確保もでき進むと思われる。 ○ 「昔の子どもの遊び」を高齢者の人達に指導してもらおうと、子どもたちもきつと喜ぶはずです。 ○ 先生方の業務量の多いことを耳にしております。働きやすい環境づくりをし、心に余裕をもって児童に接して欲しい。(改革を進めてください) ○ 学校ホームページは内容が充実して分かりやすく、地域の人々にも学校の様子が開示されており、大変意義あることと評価します。 ○ 保護者と地域での会合ともほとんどないため、詳細は不明であるが、地区の集まり等でも特別話題に上がることもない。 ○ 我々と父母の会の方々(保護者)との会議を開いてもらい、互いの意見を交わすことも重要ではないかと思われる。 	3.1
	働き方改革の推進	学校における働き方改革を具体的に推進する。		
	積極的な学校情報の発信	学校の方針や取組を広く発信するために学校便りの発行とホームページの活用を推進する。		
	特別支援教育体制の充実	適時、適切な校内就学指導を実施するとともに、様々な関係機関との連携を推進する。		